



名森小学校で行われた防災避難訓練

質問

回答

命を守る教育の徹底を

安全文化の構築に全力で取り組みます [教育長]

質問 自然災害は、地域の地形や気象条件と深く関わっていて、ローカルな側面を持っています。

ゆえに、各学校で作成される防災マニュアルは地域に密着したものでなければなりません。

地域で起きた過去の自然災害を把握すると共に、起こりうる災害を想定することが重

行動できる能力を育成することが重要です。

また、日々の教育活動の中で地震・災害の起こりうる地域、災害発生メカニズム、発生時の関係機関の役割、ケガに対する応急手当てなど基礎的な知識も大切です。

一方、中高生は、災害発生時や復旧、復興にあたって、被災地では支援者として行動

一般質問



岩田 譲治
いわた じょうじ

要です。あらゆる場合を想定した防災訓練、学校の避難所としての役割、子どもの引渡し方法、災害時における家庭関係機関との連携協力など、多様な想定が必要になります。

災害が起きた時、自分の命は自分で守ることが基本です。

子ども達が自ら危険を感じ、状況を適切に判断し、素早く

することも期待されます。

防災教育は、安全で安心できる社会づくりに貢献することと、ボランティア精神を養い、社会の担い手を育てることにもつながると思います。

安八町の学校教育現場における防災教育の現状と今後の方針について、お聞かせ下さい。

回答 「自分の命は自分で守る」これが基本です。

そのために学校では、各教科・道徳・特別活動など全体を通して、児童生徒自身に身を守る能力を付けさせることが必要です。

また、定期的に行う避難訓練は、体験学習として重要な取り組みで繰り返し行っています。「災害現場から多くのことを学ぶ目」の大切さは、幅広い人間形成にも繋がります。

「安八町地域防災計画」の見直しに合わせて「学校の危機管理の手引き」を見直し、より実践的なものにしたと思います。

今後の、防災、安全教育は防災意識・能力の基盤を培うものです。

関係機関と常に連携、協力を図り、次代の安全文化を構築します。